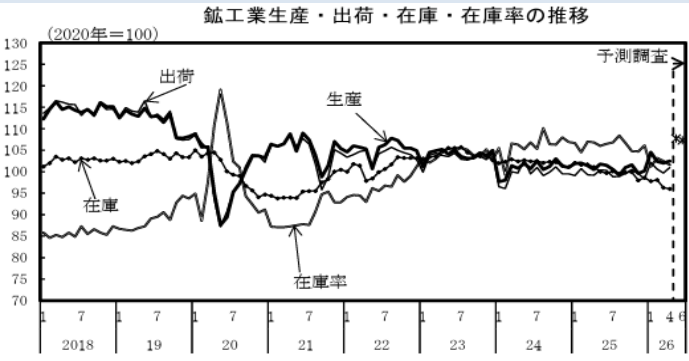
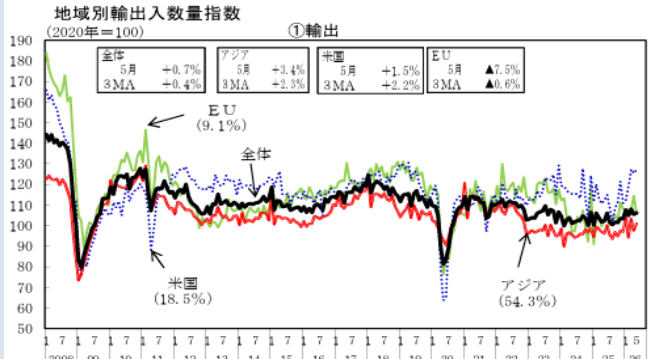
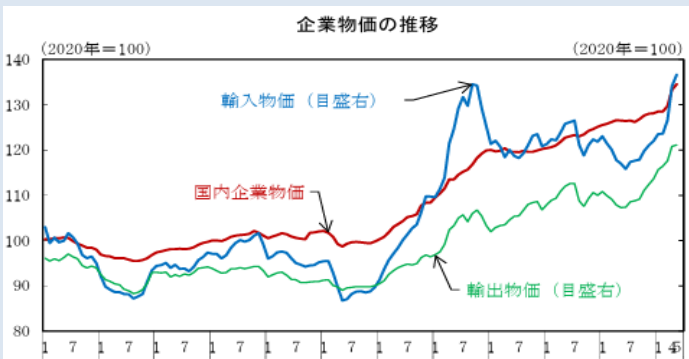
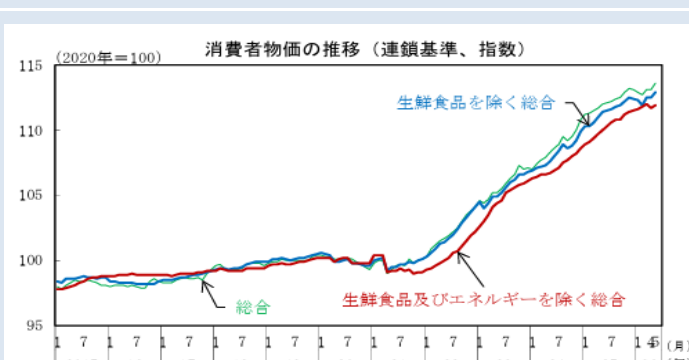


| 月例経済報告（2026年6月）

● 月例経済報告（6/30）

基調判断	(6月) 景気は、緩やかに回復しているが、中東情勢の影響を注視する必要がある。先行きについては、雇用・所得環境の改善や各種政策の効果が緩やかな回復を支えることが期待されるものの、中東情勢の影響を引き続き注視する必要がある。また、金融資本市場の変動の影響などに注意する必要がある。 (5月) 景気は、緩やかに回復しているが、中東情勢の影響を注視する必要がある。先行きについては、雇用・所得環境の改善や各種政策の効果が緩やかな回復を支えることが期待されるものの、中東情勢の影響を注視する必要がある。また、金融資本市場の変動の影響などに注意する必要がある。
個人消費	(6月) 持ち直しの動きがみられる (5月) 持ち直しの動きがみられる。ただし、消費者マインドがこのところ弱い動きとなっていることに注意が必要である 総消費動向指数（CTIマクロ）と総雇用者所得 (2020年=100) 総消費動向指数 (CTIマクロ) 4月 名目 +0.4% 実質 +0.2% 総雇用者所得 4月 名目 +1.5% 実質① +1.4% 実質② +1.3% 実質①…家計最終消費支出デフレーター 実質②…家計最終消費支出 (除く持ち家の購買支出及びFISD) デフレーター
設備投資	(6月) 持ち直している。 (5月) 持ち直している。 製造業・非製造業の設備投資（名目額） 非製造業 ソフトウェア投資（目盛右） 製造業
住宅建設	(6月) 弱含んでいる (5月) 弱含んでいる 住宅着工戸数（季節調整値） (年率、万戸) 4月 72.4 万戸 3MA 73.7 万戸
雇用情勢	(6月) 改善の動きがみられる (5月) 改善の動きがみられる 雇用者数、就業者数、就業率の推移 就業者数 4月：6,876万人 雇用者数 4月：6,238万人

生産	(6月) 横ばいとなっている	
	(5月) 横ばいとなっている	
輸出	(6月) <u>このところ持ち直しの動きがみられる</u>	
	(5月) <u>おおむね横ばいとなっている</u>	
国内企業物価	(6月) このところ上昇している	
	(5月) このところ上昇している	
消費者物価	(6月) 緩やかに上昇している	
	(5月) 緩やかに上昇している	
海外経済	(6月) 世界の景気は、一部の地域において弱さがみられるものの、緩やかな持ち直しが続いている。ただし、中東情勢を始め世界経済の不透明感が続いている。先行きについては、基本的には緩やかな持ち直しが続くことが期待されるが、中東情勢による影響を注視する必要がある。また、金融資本市場の変動による影響等に留意する必要がある。	
	(5月) 世界の景気は、一部の地域において弱さがみられるものの、緩やかな持ち直しが続いている。ただし、中東情勢を始め世界経済の不透明感が続いている。先行きについては、基本的には緩やかな持ち直しが続くことが期待されるが、中東情勢による影響を注視する必要がある。また、金融資本市場の変動による影響等に留意する必要がある。	

月例経済報告：内閣府